

昔話に登場する海女

この地方で古くから語り伝えられてきた昔話にも海女の物語があります。

お弁の話

倭姫命は大和の国から天照大神をお祀りする最適地を求めて旅をし、伊勢の五十鈴川のほとりに御鎮座を終えられました。船で志摩地方を巡幸された国崎の鎧崎で、海女が潜っているのをご覧になりました。

そのとき、「その貝は何というのか」とお聞きになり、海女のお弁が「これはアワビと申します。大層おいしい貝です」と申し上げると、倭姫命はアワビをお召し上がりになりました。倭姫命はいたく感動し、「この貝を毎年、伊勢神宮に献納してほしい」と言われました。お弁は「生のままでは腐るので薄く切り乾燥させて貯蔵します」と申し上げると、それも



海士潜女神社

献納するように言われました。これが「ノシアワビ」の起源で、国崎の海女と漁師は、今でも6月、10月、12月の3回、ノシアワビを伊勢神宮に献納しています。

また、お弁は蟹御前として海士潜女神社に祀られています。

竜宮へ行った海女

安乗岬の的場町入り口あたりの岩礁を、大倉島と神島と呼んでいます。むかし、ひとりの海女が神島でアワビを獲っていましたが潜ったまま帰ってきませんでした。村の者があちこちの海を探しましたが、行方が分からなかったので七日目に葬式をして供養しました。それからしばらくして、大倉島にムツを釣りに行った漁師が、海の中から「オーイ、オーイ」と声がするので見回すと、海女の磯桶が浮いてきます。「助けてくれー」と聞こえてきたので、漁師はビックリしましたが、行方不明になっていた海女に違いありません。漁師は海女を連れ帰ってきました。

その海女が言うには、一生懸命に潜っていると一人の童子が現れ、その後についていく

と、美しい竜宮城につきました。そこで乙姫さまからいただいたのが玉手箱。中を開けずに大切にすれば、代々家は繁盛するが、箱を開けたら家に祟りがあるといひます。みんなその不思議な箱の中を知りたがりでしたが、祟りも恐いので開けずにいました。ところがその話を庄屋さんが聞き、皆が止めるのも聞かずにフタを開けました。すると中から小さな蚊帳が出てきました。その蚊帳は見る見るうちに大きくなり、驚いて蚊帳を折りたたもうとしましたが元通りにはならず、祟りを恐れて玉手箱と蚊帳は、伊雑宮へ奉納しました。それ以来、家は途絶えて、その家を買った家も繁盛しなかったということです。

古典の世界の海女 能と落語

日本の古典戯曲である「能」に、海女を題材にしたものがあります。観世流では「海士」と題され、そのあらすじは次のようなものです。

藤原房前は母の追善のために、母が亡くなった志度の浦(香川県大川郡志度町)へ行きます。そこで出会った海女は、房前の父である不比等が唐から取り寄せた三つの宝のうち「面向不背の玉」が龍神に取られたこと、それを取り返すために不比等は志度の浦に来て海女と仲良くなって取り返してもらおうと考えたこと、その海女と契りを結び一人の子をもうけたこと、その子が房前であることを語ります。そしてその玉を龍神から取り返した時のことを語りました。玉を取って帰ってくれば、この子を藤原家の後継ぎにしようという不比等の言葉を信じて、海女は海底の竜宮城に行っ



て玉を取り返しますが、龍神の追跡を受けたため、剣で乳の下を切って玉を押し込め、縄を引き上げさせました。死の息の下で海女は乳の下を見よと言って玉の存在を伝えます。このようにして房前は藤原家の後継ぎになったのだと海女は語ったのでした。そして自分こそがその海女の亡霊、つまり房前の母であると名乗ったあと、弔いを頼んで姿を消します。

海へ潜るのに海女を頼ったことなど、古くからの海女の存在をこの曲は伝えています。また、香川県の志度寺にはその海女の墓と言われる石塔が残っています。

能

幽玄の世界「能」とは対照的な笑いの世界「落語」にも海女が登場するものがあります。のしアワビのいわれがテーマになった「祝いのし」またの名を「アワビのし」という上方落語です。

ある男、家主の息子の結婚祝いにアワビを持って行きましたが「磯のアワビの片想い」という言葉があるので、縁起が悪いと突きかえされます。そこで知恵を授けたのが男の友だち。祝いごとに使う「のし」と「アワビ」の関係を男に説明しました。「この結構なのはアワビから作るんや。アワビは志州志摩浦で海女という女子が獲る。海女は絵に描いたら綺麗やが、本当は潮風に吹かれて色の黒い汚い女子や。女子というのは月に一度の月

落語

経日がある。この日は海へは入れんので、他の海女が獲ったアワビを手桶に入れて番をしている。月経日のことを「手桶番」とは、これから言うたものや。そのアワビを大釜で蒸して剥いて、ムシロ敷いたその上に延して、その上にまたムシロを被せ、その上で仲のええ夫婦が夜通し睦まじゅうせなんだら、結構なのしができんのじゃ。こない言うたれ」

持つべきものは友だちと、この男、また家主の家に外向いて、シドロモドロになりながらも話します。言い間違いや頓珍漢なやり取りに思わず笑ってしまっ、のしのいわれについてはあまり印象に残らないのですが、よく聞くと、海女の風習なども描かれていて、とても興味深いものです。